

〈委員会報告〉

職業感染制御委員会・臨床研究推進委員会  
 新型コロナウイルス感染症診療における医療従事者の針刺し切創についての  
 アンケート調査

國島 広之<sup>1,2)</sup>・吉川 徹<sup>1)</sup>・網中眞由美<sup>1)</sup>・遠藤 史郎<sup>1)</sup>・菅野みゆき<sup>1)</sup>  
 豊川 真弘<sup>1)</sup>・貫井 陽子<sup>1)</sup>・藤田 昌久<sup>1)</sup>・森兼 啓太<sup>1)</sup>・四柳 宏<sup>1)</sup>  
 和田 耕治<sup>1)</sup>・佐藤 智明<sup>2)</sup>・青柳 哲史<sup>2)</sup>・飯沼 由嗣<sup>2)</sup>・泉川 公一<sup>2)</sup>  
 植田 貴史<sup>2)</sup>・内山 正子<sup>2)</sup>・藤村 茂<sup>2)</sup>・美島 路恵<sup>2)</sup>・三鴨 廣繁<sup>2)</sup>

*Needlestick Injuries Among Healthcare Workers with COVID-19: A Questionnaire Survey*

Hiroyuki KUNISHIMA<sup>1,2)</sup>, Toru YOSHIKAWA<sup>1)</sup>, Mayumi AMINAKA<sup>1)</sup>, Shiro ENDO<sup>1)</sup>, Miyuki SUGANO<sup>1)</sup>,  
 Masahiro TOYOKAWA<sup>1)</sup>, Yoko NUKUI<sup>1)</sup>, Masahisa FUJITA<sup>1)</sup>, Keita MORIKANE<sup>1)</sup>, Hiroshi YOTSUYANAGI<sup>1)</sup>,  
 Koji WADA<sup>1)</sup>, Tomoaki SATO<sup>2)</sup>, Tetsuji AOYAGI<sup>2)</sup>, Yoshitsugu INUMA<sup>2)</sup>, Koichi IZUMIKAWA<sup>2)</sup>,  
 Takashi UEDA<sup>2)</sup>, Masako UCHIYAMA<sup>2)</sup>, Shigeru FUJIMURA<sup>2)</sup>, Yukie MISHIMA<sup>2)</sup> and Hiroshige MIKAMO<sup>2)</sup>

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、国内外で流行の拡大が見られており、多くの医療従事者が対応を迫られている。COVID-19は飛沫感染が主たる感染経路であるものの、血中のPCR陽性がみられることから、針刺し切創に伴う血液媒介リスクの評価が行われている。日本環境感染学会 職業感染制御委員会ならびに臨床研究推進委員会では、COVID-19診療における医療従事者の針刺し切創の現状を明らかにすることを目的として、2020年12月から2021年1月に評議員（同一施設を含む335名）を対象に、1施設あたり評議員1名から回答

としてWebアンケートを実施した。回答は95名（施設）から得られた。

95施設のCOVID-19診療状況は、51施設（53.7%）は「ほぼ毎日入院している」と回答しており、一時的を含めると併せて本調査のうち85施設（89.5%）が過去3ヶ月に本感染症の診療を行っており、COVID-19針刺し切創のフローは81施設（85.3%）が整備していた。

針刺し切創は7施設（7.4%）で報告がされていた。職種では「医師」が6施設、「看護師」が1施設であった。発生場所は「病室内」が6施設、「心臓カテーテル室」が

貴施設では、過去3ヶ月間に新型コロナウイルス陽性患者の入院診療を行っていますか？

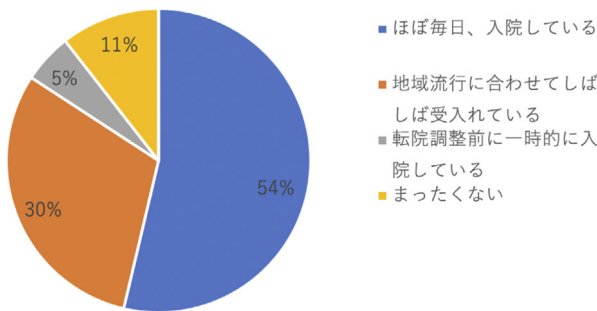


図1

貴施設では、COVID-19に針刺し切創時のフローはありますか？

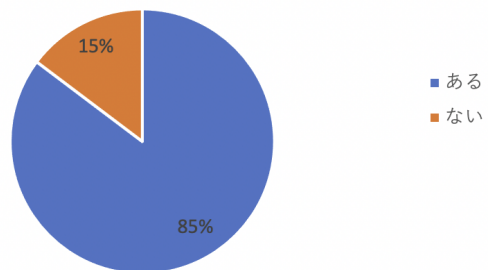


図2

<sup>1)</sup>職業感染制御委員会, <sup>2)</sup>臨床研究推進委員会

貴施設では、COVID-19の患者診療で針刺し切創の事例はありますか？

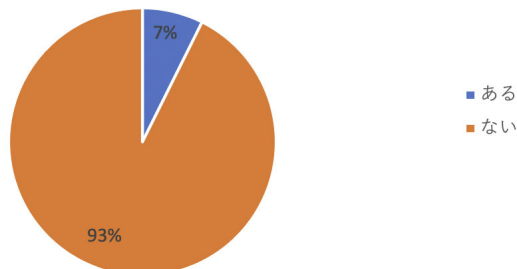


図 3

針刺し切創をおこした職種を教えてください。(複数回答可)

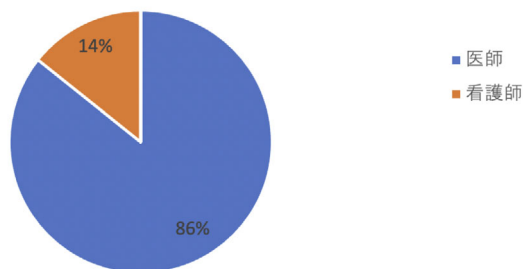


図 4

針刺し切創の発生場所はどこでしたか？(複数回答可)

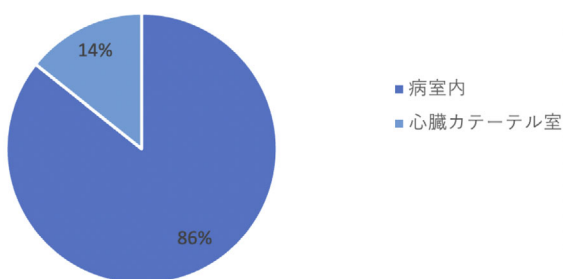


図 5

針刺し切創の原因器材は何でしたか？(複数回答可)

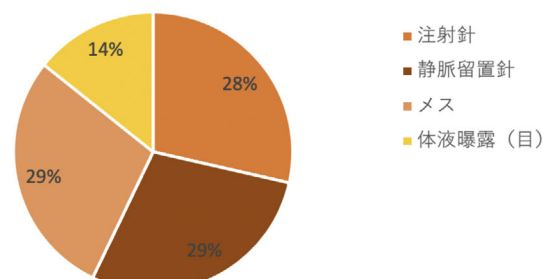


図 6

針刺し切創後の対応はどうされましたか？(複数回答可)

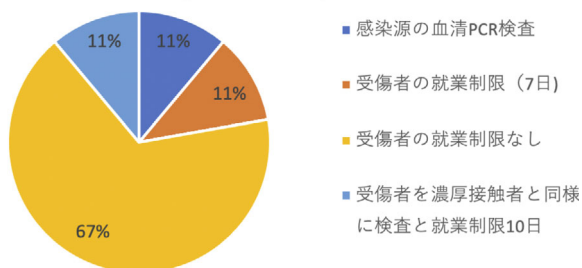


図 7

1施設であった。原因器材は「注射針」2施設、「静脈留置針」2施設、「メス」2施設、「体液曝露」1施設であった。事後対応としては、「受傷者の就業制限なし」が6

施設と最も多く、「感染源の血清PCR検査」1施設、「受傷者の就業制限(7日)」1施設、「受傷者を濃厚接触者と同様に検査と就業制限10日」1施設であった。

本調査の制限事項として、本学会の評議員が所属する施設を対象としていること、地域の流行状況や発生率を含めた詳細の解析は行っていないことなどが挙げられる。

今回の調査において、COVID-19診療において医療従事者の針刺し切創事例がみられることが明らかとなった。今後、COVID-19の血液媒介リスクの評価や、対応方法について検討していくことが重要であると考えられる。

謝辞：COVID-19対応を含む激務のなか、ご回答いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。

利益相反自己申告：申告すべきものなし。